

学生の居住地選択の要因に関する研究

1230475 高橋隆平

指導教員 土屋哲

研究背景

授業の一環で過疎地域について深く知る機会があり、その地域に移住者を呼び込む活動を行った。結果はうまくいかず、そのことで、どのようにしたら過疎地域や田舎と呼ばれる地方に人が集まるようになるかを考えるようになった。あわせて、就職活動を通して地元にとどまる人、都会に移り住む人、と様々な選択肢がある中で、どのような理由で居住地を選択するのかを知りたいと考えた。

研究目的

本研究は、若者が居住地を選択する際に重視するポイントと地元への帰属意識の関連性について明らかにし、地方の核となる中核市やこれに準ずる都市の発展につながることを目的としている。

研究方法

高知県在住の学生を対象にアンケート調査を実施し、分析を行った。

分析結果

地元就職を考えている学生（49名）と、将来地元に戻りたいと考えている学生（70名）は全体（152名）の78%に至った。また、居住地の都道府県を選択した理由としては、都会に対する意識が向けられていた。しかし、そのうちの68%は地元に戻りたいと考えていることも明らかになり、その中でも20代で戻りたいと考えている学生が多いことが分かった。

考察・結論

学生の地元への帰属意識が高いことが分かった。しかし、現状で都市への流出や過疎化は進行しているため、地元に戻りたいと考えている学生でも、県外に出た際に「憧れ」が「安定」にかわり、地元には戻らない選択を取っているのではないかと考えられる。このことから、地方都市は地元ならではの特性に基づいて価値を生み出し、他都道府県との差別化を図っていくことが求められる。また、中核市や中都市にある施設・規模等について認知することで、都会への流出をある程度防げるような施策を検討できるのではないかと考える。